平成 19 年 6 月 23 日

北関東フォーラム

於：シムックス

# 中斎塾　北関東フォーラム　第 3 回講話

おはようございます。

今回資料にお付けしましたのは、従来の講話資料と、トルコに行ってきましたので、「トルコの旅を終えて」というレジメでございます。

本日のテーマの「事上磨練と知行合一」の説明の中で、トルコを申し上げます。

最初に恒例となりました質問を致します。

**先週一週間、嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか？**

・・・(一人ですか・・・)

嘘をつかないで一日を過ごすというのは、大変な事だと思います。

テレビをつけると、「嘘をついて申し訳ありません・・・」という報道の連続です。

こういう時代ですから余計に、嘘をつかないという事を標榜する集団があると、それだけで一服の清涼剤になると思います。

やはり一週間はきびしいでしょうか。

では、昨日一日嘘をつかなかったという方はどれくらいおられますか。

（・・・沢山手が挙がる）

やはり一日なら、嘘をつかずにいられますね。

これをなるべく増やしていくと良いと思います。

このように毎回お聞きする事によって、嘘をついてはいけないのだという事が、頭の中に沁みこんで来ます。

そして、嘘をつきかけた時に、一瞬はっと止まる効果を考えています。

続けてお聞きします。

**昨晩寝る時に、“今日一日、良い日だった。満足した”と満足して眠りについた方はどれくらいおられますか？**

寝る前に「ああ良かった」と思って眠れたかどうかが、知足の一つの判断基準です。

これも沢山手が挙がると良いですね。

草臥れきって何も考えられないというような時でも、瞬間的に「今日は良い一日だった」と思って寝ると、寝ている間に脳がよく動くそうです。

又、寝る時に、具体的に脳に宿題を与えて眠ると、翌日大体それが片付いている。

そういう脳の使い方をすると良いですね。

もう一つお聞きします。

ここ１ヶ月くらいを考えてみて下さい。

**自分だけ儲けよう、自分だけ良い思いをしよう、自分だけ良ければよい・・・と、心の中で思って行動した事はありませんか？**

「利によりて行なえば、怨み多し」の具体例としてお聞きしています。

目の前の欲望に負けて食べすぎると、ダイエットが必要になる。

飲みすぎも同じです。

体力の使いすぎも、お金の使いすぎも同じです。

目の前の欲望に負けるか、負けないかとお考え下さい。

以上、基本哲学の知足、私の好きな言葉をベースにしてお聞きしました。

では、**心に残る言葉**を申し上げます。

中村天風先生の『君に成功を贈る』という本を持参しました。

天風先生の本は、落語や講談を聞いているような感じで読める本です。

よく読みますと、かなり練った跡が分かります。

落語も講談も、何度も何度も練りに練って素晴らしい芸術作品になってきたのだと思います。

この本の中から、**「たとえ身に病あれど心まで病ませない、運命に非なるものあれど心まで悩ませない」**という言葉を選びました。

例えば身体のどこかが病気になったり、怪我をして手術が必要になったとします。

天風先生の考え方は、肉体の部分だけは確かに痛いはずだけれども、心まで一緒に痛いと騒ぐ事はない。

身体はダメージを受けても、心は痛まないし悩まない。

心はいつも爽やかだというものです。

天風先生の本の中の説明が実におもしろいのですが、朝起きたら頭が割れるように痛かった。そこへ好きで好きでたまらない女の子が来たら、頭が痛いのが飛んでしまったと書いてあります。

頭が割れるように痛くても、それとは全然違う、自分が夢中になるようなものが出てきたら、飛んでしまうのですね。

人間の心はおかしなものです。

では、**本日のテーマ、事上磨練と知行合一**を申します。

トルコの旅を例に申し上げます。

先月 5 月 31 日にトルコで買い物をしましたが、消費税は 18%でした。

翌日 6 月 1 日になると、消費税が 8%に下がりました。

何故そういう事をしたのか。

トルコは、日本で言うと社民党とか国民新党くらいの小さなグループが集って、寄合所帯で政権を運営していましたが、たまたま選挙でＡＫＰという政党が単独政権を握りました。

トルコはイスラムが 99%を占めています。

貧困層は当然イスラムの信者です。

ＡＫＰはその貧困層に、白物家電を配って歩いて票を集め、そして単独政権ができてしまったと聞きました。

賄賂・リベート・汚職で回っている国だと、実感しました。

私がトルコに参りましたのは、「2005 年 1 月 1 日にトルコがデノミをした」という新聞報道を見て以来、ずっと行きたいと思っていました。

0 を 6 つ落としたデノミネーションをトルコは行ないました。

100 万円が 1 円になったわけです。

デノミには、2 種類あります。

普通のデノミは通貨の呼び方を変えるだけですが、ロシア型のデノミは、名前だけでなく価値も一緒に落としてしまいました。

ですからロシアでは、金持ちが一瞬にして乞食になってしまいました。

トルコのデノミは呼び方だけを変えただけなので、一瞬に乞食にはなりませんでした。

しかし 0 をいっぺんに 6 つも落としたのですから、相当なインフレだという事が分かります。

私は経済破綻をテーマに研究していますので、去年から今年にかけて、ロシアに 2 回、アルゼンチン・ペルー・ブラジル、そしてトルコと、経済破綻の国を意識して回って来ました。

2005 年 1 月 1 日付けのデノミの新聞記事を読んで、トルコに「行きたい」と思って、ず

っと氣にしていましたが、実際にトルコに行ったのは最後になってしまいました。

お配りしたレジメ「トルコの旅を終えて」をご覧下さい。
トルコの訪問時の印象について申します。
人と車が溢れている国だと思いました。
以前、中国に行った時には人と自転車が溢れていて驚きましたが、トルコにはやはりびっくりしました。
車がどんどん走っている中を、人がすり抜けて通るという状況でした。
赤信号でも通ってしまう車がありますから、日本の常識など通用しません。
人が溢れてどうにもならないくらいの印象です。
又、治安の悪化に伴ってのセキュリティチェックが生活の中に溶け込んでいました。
トルコについてすぐに、ジェトロの入っているビルに行きました。
大きなビルですが、飛行機に乗る時と同じようにゲートをくぐって、セキュリティチェックをされます。
パスポートを取り上げられて、代わりに入管証を胸に付けて中に入りました。
帰りに、入管証とパスポートを交換します。
スーパーで買い物をするのにもゲートがあって、同じようにセキュリティチェックです。
皆、当たり前にチェックを受けていました。
ガードマンが 3、4 人立っていて、トランクを開けたり車の下を覗いたりして車のチェックもしていました。
観光施設へ行っても、同じようにセキュリティチェックがあります。
セキュリティチェックが当たり前になっているほど、かなり物騒なのだと感じました。

何故、物騒になったかというと、やはり経済破綻が原因です。
1970 年にインフレが始まりました。
それから、だらだらとインフレが続きました。
先ほど申しましたアルゼンチンやロシアの国々は、5000%といったハイパーインフレを味わっています。
トルコは最高でも 120% 位のインフレですが、これがだらだらと 30 年続いたわけですから、やはり国民生活は破綻です。
その中で、2001 年に経済危機がありました。
金利が大暴騰して、社会が大混乱をしました。

経済が破綻し、その結果、大金持ちと極貧が二極分化しました。
実際に話を聞いてみると、大変な状況を過ごしてきたのだと身体で感じました。
最低限食べていける人は、野菜とパンとスープの生活だったそうです。
しかし貧困層といわれる人達の表情を見ると、それほど暗く沈んでいませんでした。
今アメリカでは、いくら働いても絶対に良くならないという悪循環に陥ってしまった貧困層の人たちがいて、そういった人達は無表情になっているといいます。
無表情になっている国民とは、どういう生活なのか・・・。
無表情になるというのは、どの程度の収入なのか・・・。
新しいテーマが出来ましたので、今度見に行きたいと思っています。
そういう点で見ると、日本国中探しても無表情で希望も何も無い人はいないと思います。

ロシア・アルゼンチン・トルコ・・・どこの国も経済が行き詰って、デノミをしたりデフォルトをして、外国からお金を借りて何とか回しています。
実際に経済破綻をした国々を回ってみると、共通点がありました。
一つには、政治家が腐敗をしていました。
政治家が汚職をし賄賂を取って、それを見習って高級官僚も同じ事をしている。
政治家や官僚が腐敗しきってしまって、私利私欲を貪りすぎた結果として、外国から借金を沢山せざるを得ない状況になったわけです。
ロシアもアルゼンチンも、借金が稼ぎ高（ＧＤＰ）の半分に行くか行かないかで国家破綻をしました。
デフォルト(借金踏み倒し宣言)です。
政治家・官僚の腐敗があって、もの凄い借金をしていて、どうにもならなくなって踏み倒しをしてしまったという共通項が分かりました。
ただ、トルコはデフォルトをしないという国民感情があるので、踏み倒し宣言はしていませんでした。

こうなると、一般の国民にはどういう現象が出ているか・・・。
一つの職業だけでは食べられませんから、他の仕事を 2 つ 3 つ持つようになっていました。
モスクワで会った大学教授は、観光ガイド、翻訳のアルバイトをしていました。
これで何とか昔の生活に近づいた暮らしが出来るそうです。
或る国の大都市の例ですが、そこの地域の警察官の 3 分の 2 は普通のアルバイトをして

いますが、3 分の 1 は強盗団を組織して、それで食べていると聞きました。

まともに仕事をして生きていこうと思う人は、従来の職業の他に、大体 2 つの職業を持たなければやっていけないようです。

官庁に勤めている役人も、二つ三つの仕事をしていました。

まともに仕事をしたくない人間は悪事に手を染めて、そこから収入を得るわけです。

その結果として、4 割から 5 割の地下経済が出来る。

これも経済破綻をした国に共通していました。

ですから統計の数字で出ているものは、ほとんど実態とは違っています。

例えばロシアで会った方は、

「稼いだお金をきちんと申告したら、税金が払いきれません。だから収入の何割を申告するか、会計事務所と相談して出しています」と言っていました。

もちろん政府も、それを承知でやっているわけです。

国が破綻をすると、精神が歪まざるを得ません。

肉体的にも疲れきってしまうと感じました。

トルコの場合は、リベートを取る事も汚職をする事も、ごく普通の感覚で会話をしていました。

ここまで来るのかと驚きました。

こういった状況を逃れることが出来たのは、自分のお金をよその国に預けていた人達でした。

箪笥預金をしていた人達は、最初の内は何とかなったようです。

ただ、箪笥預金だけでは、自分の国のお金は一変に価値がなくなりますから、持ち堪えられません。

又、経済破綻をした国々に共通していたのは、不動産バブルが起きていました。

1 年経つと、不動産が倍になるというのが常識でした。

ただ、何時はじけるか分からない。

日本のバブルがはじけた事が、他の国々で非常に参考になっているようです。

以上のように経済破綻を起した国々を眺めてみると、日本でも似たような事が起きる可能性が、九割がたあると思っています。

そうなった時にどのように対処すれば良いかという事は、自動的にこの中から見えてくると思っています。

事上磨練は、仕事の中で自分を磨く事です。

「学ぶ」というと、教場で先生の話を聞き、本を読み必死になって勉強することをイメージすると思います。

しかし本物の学問は当然そういった机上の学問をし、基本を覚えて、その上で日常生活・仕事の中で自分自身を磨く材料をはっと見つけることです。

はっと見つけたら、そこが入り口になって、どんどん自分自身を磨く事が出来ます。

日常生活の中で、はっと思わなければ磨くヒントは見つかりません。

どこかではっとする事、良い事は感動する事が大切です。

日常生活の中で、＜はっとしたい＞とか＜感動したい＞と思い続けることが必要です。

それが事上磨練の入り口になります。

それに体験を裏打ちさせて、自分でも氣が付かないうちに、レベルが上がったなと感じるようになります。

知行合一は、即行動です。

はっとした時に、すぐに行動に移すのです。

「知るは行うの初めにして、行うは知るの成れるがなり」と申します。

「知っている」と言うには、必ず行動の裏付けが必要です。

行動したという事は、＜知っている＞という知識の集大成だとお考え下さい。

今日申しましたトルコの旅については、先日、日本民俗経済学会の講演で、＜ロシア・アルゼンチン・トルコを回っての経済破綻の検証＞と題してお話しさせて戴きました。

秋頃、この論文を日本民俗経済学会から出す予定です。

以上で本日の中斎塾フォーラムは終了させて戴きます。

有難うございました。